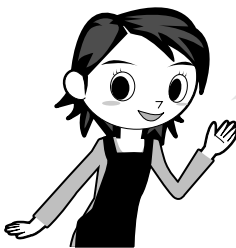


お手入れと点検



●安全・快適にお使いいただくため、定期的に行なってください。

点検時に異常がある場合は、給水配管専用止水栓を閉じ、漏電遮断器の電源レバーを「切」にして据付工事店（販売店）へご連絡ください。

ご使用の前に

使いかた

こんなとき

故障かな

逃し弁

水漏れ点検と動作点検を行います。わき上げをしていないときに行なってください。 頻度：年に2～3回程度

1 水漏れ点検

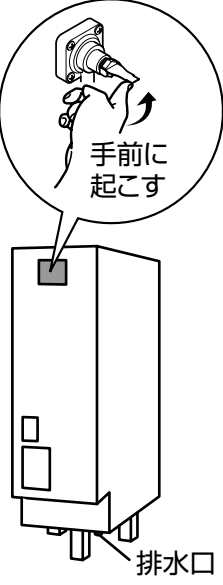
排水口から水（お湯）が出ていないことを確認する

水（お湯）が出ている場合は逃し弁操作窓を開け、逃し弁のレバーを数回動かしてください。

2 動作点検

逃し弁操作窓を開けて、逃し弁のレバーを手前に起こし、排水口から水（お湯）が出ることを確認する

3 逃し弁のレバーを戻す



- ⚠ 警告

●点検時は、配管に手を触れない（やけどの原因）
- ⚠ 注意

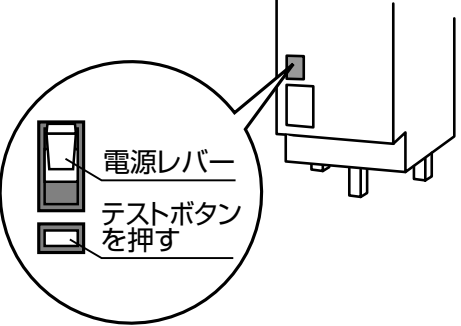
●逃し弁の点検をする（タンク、配管破損・水漏れの原因）

漏電遮断器

電源供給中に行なってください。 頻度：年に2～3回程度

1 操作窓を開け、テストボタンを押す
電源レバーが「入」→「切」になれば正常です。

2 必ず電源レバーを上げ、「入」に戻す



- ⚠ 警告

●漏電遮断器の動作を確認する（感電の原因）

配管の水漏れ 保温材破損

頻度：年に2～3回程度

配管の水漏れや保温材破損がないか点検します。破損している場合、配管が凍結し、本体や配管が破損することがあります。

- ポイント

●保温材の点検は、冬期前には必ず行なってください。
- ⚠ 注意

配管を点検するマンションなど、中・高層住宅では水漏れが起きた場合、下層階に被害を及ぼすことがあります。

リモコン

頻度：日常

表面が汚れたときは、乾いた布や固くしぼった布で拭いてください。

- ポイント

●ベンジンやシンナー、アルコールなどの化学薬品は使用しないでください。変形や変色の原因になります。

貯湯タンク

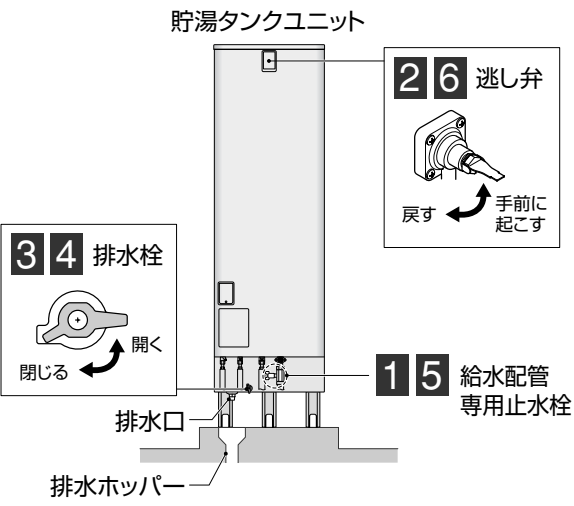
頻度：年に2～3回程度

タンクの下部にたまった汚れを排水します。わき上げをしていないときに行なってください。

- 1 給水配管専用止水栓を閉じる
- 2 逃し弁操作窓を開けて、逃し弁のレバーを手前に起こす
- 3 排水栓を約1～2分間開く
タンクの下部にたまった汚れを排水します。排水ホッパーから排水があふれないように排水栓を調整してください。
- 4 約1～2分間たったら、排水栓を閉じる
- 5 給水配管専用止水栓を開く
- 6 排水口から勢よく水が出たら、逃し弁のレバーを戻す

- ⚠ 警告

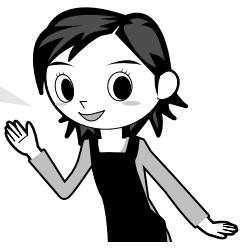
排水時はお湯に手を触れない（やけどの原因）



定期点検 （有料）

●給湯機を少しでも長くお使いいただくため、3～4年に1度定期点検（有料）を行なってください。

定期点検については、据付工事店（販売店）または「修理窓口（P31）」へご相談ください。点検の結果、部品交換が必要なものは、有料で交換します。



定期点検の主な内容

- 据付状態

設置面、配管状態、配管その他の保温処置、電気配線などの確認
- 機能部品

電気部品（配線、導通、動作の確認）、弁類（減圧弁、逃し弁）、給水用具（逆流防止装置）*などの点検及び消耗部品の交換
※給水用具（逆流防止装置）に関しては、（社）日本水道協会発行の給水用具の維持管理指針に基づいて点検をします。
- 清掃

タンク内の清掃（沈殿物の除去など）、給湯機のストレーナーの掃除

消耗部品について

- 下記部品の交換時は、当社別売部品をご指定ください。
- 減圧弁

●逃し弁

●混合弁
- 電磁弁

●バイパス弁

●ポンプ
- パッキン類

ご使用の前に

使いかた

こんなとき

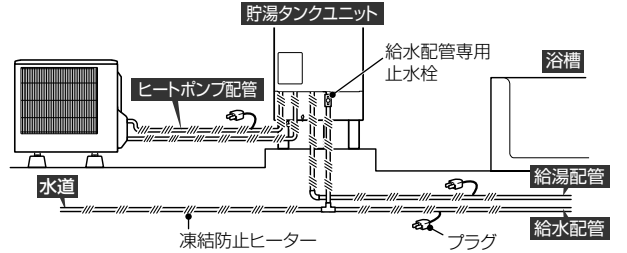
故障かな

凍結防止

寒い季節になったら、凍結防止処置が行われているか、必ず確認してください。各配管に保温工事がしてあっても、冬期は本体周囲温度が0℃以下になると配管が凍結し、機器や配管が破損したり、リモコンにエラーが表示されたりすることがあります。（寒冷地だけでなく暖かい地域でも凍結することがあります。）据付工事店（販売店）へ相談し適切な凍結防止対策をしてください。

⚠️ 注意

●凍結防止処置の確認をする
凍結するとタンクや配管が破裂し、
やけどや水漏れをすることがあります。



- 1
- 凍結防止ヒーターが図のように設置されているか確認する
- 2
- 使用するときは、
すべてのプラグをコンセントに差し込む

ポイント

●凍結しない季節はコンセントからプラグを抜いておきます。
●配管が凍結した場合は、給水配管専用止水栓を閉じて据付工事店（販売店）へご連絡ください。
●貯湯タンクユニットとヒートポンプユニットの凍結防止のため、ヒートポンプユニットを動作させて凍結防止運転を行います。（わき上げ停止日数が設定されている場合でも、凍結防止のため動作することがあります。）

ご使用の前に

使いかた

こんなとき

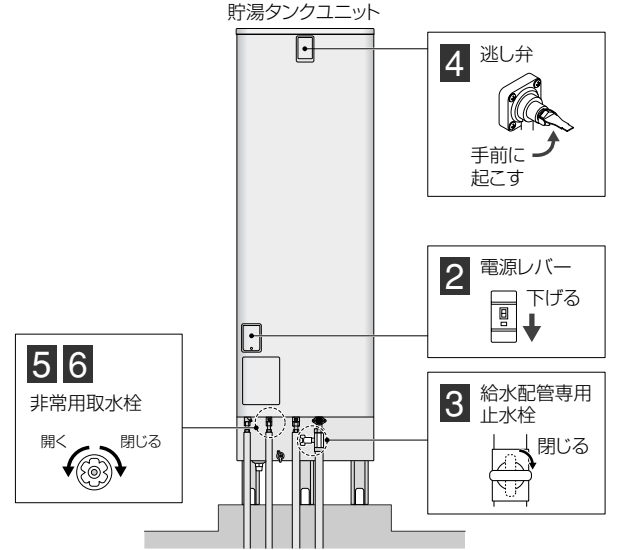
故障かな

非常時の取水方法

タンクの水（お湯）を生活用水として利用できます。

⚠️ 警告

●取水時は、やけどに注意する
取水中、急に熱湯（最高90℃）が出る場合があります。



- 1
- 貯湯タンクユニットに脚部カバーがついている場合は脚部カバーの前面カバーを外す（外しかた: P.8）
- 2
- 貯湯タンクユニットの電源レバーを下げ、「切」にする
●電気の供給を停止します。
- 3
- 給水配管専用止水栓を閉じる
●貯湯タンクユニットへの給水を止めます。
- 4
- 貯湯タンクユニットの逃し弁操作窓を開け、逃し弁のレバーを手前に起こす
●タンクへ空気を取り入れます。
- 5
- 非常用取水栓を開く（1回転～1回転半まわす）
●タンクの水（お湯）を取り出します。
バケツなどで受けます。

〈取水が終わったら〉

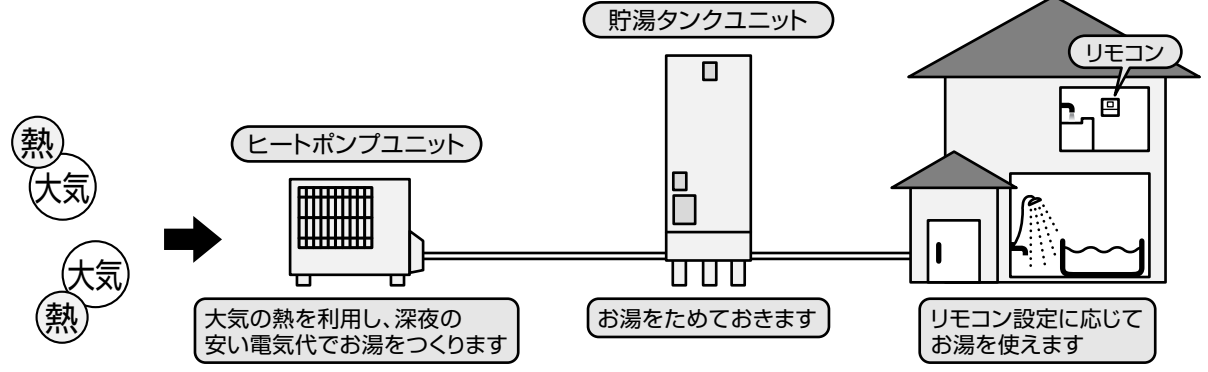
- 6
- 非常用取水栓を閉じ、手順1で外した脚部カバーを取り付ける

ポイント

●再び使用するときは、逃し弁のレバーを戻し、非常用取水栓が閉じていることを確認してから、「使いはじめ（準備）P.25」を行ってください。

機器の役割など

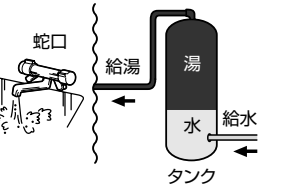
□機器の役割



□給湯機の基本原理

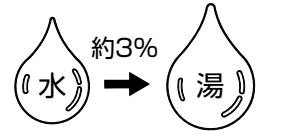
①自動給水・押上げ方式です

蛇口をひねると、タンク内のお湯は給水水圧によって押上げられ、タンク上部の給湯口より給湯配管を通して自動的に採湯することができます。使用したお湯の分だけの水が、給水口より水道水圧を利用して自動的にタンクに供給されますので、タンク内は常にお湯（水）で満たされています。



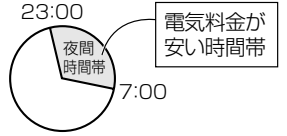
②水は体積膨張します

水がお湯になると必ず体積膨張を起こし、約3%増加します。
例えば、370Lの温水器では、約11L分増えます。この増えた分を逃がす目的で逃し弁が取り付けられます。わき上げ中に逃し弁からお湯が少しずつ排水されるのは、故障ではありません。正常な動作です。



③主に夜間に運転を行い、わき上げます

割安な深夜電力を利用して、タンク内のお湯をわき上げます。（お湯が不足しないように、昼間時間帯でもわき上げを行います。）



※ご契約の電力制度によって時間帯は異なります。

④わき上げ中はヒートポンプユニットから運転音がします

運転中は運転音がします。また、ドレン口から少量の水が出る場合があります。

⑤タンク貯湯式です

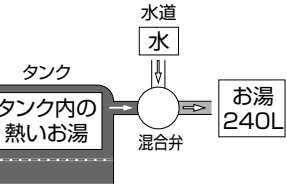
わき上げたお湯をタンクに貯湯し、水を混合させて設定温度での給湯を行います。そのため、タンク内のお湯を使いすぎると湯切れすることがあります。

⑥換算湯量とは

給湯使用量などで表示されるお湯の使用量は42℃換算湯量ですので、タンク内のお湯の使用量と異なります。例えば、昨日の給湯使用量表示が「240L」の場合、タンク内の熱いお湯と水を混ぜて42℃のお湯を240L使用したことを表しています。

簡略計算式

$$42^{\circ}\text{C換算湯量}[\text{L}] = \text{タンク内使用湯量}[\text{L}] \times \frac{\text{タンク内温度}[\text{℃}] - \text{給水温度}[\text{℃}]}{42[\text{℃}] - \text{給水温度}[\text{℃}]}$$



ご使用の前に

使いかた

こんなとき

故障かな

長期間使用しない

長期間（1カ月以上）使用しないときは、運転を止め給湯機の水を抜きます。また、凍結による不具合防止のため、給湯機の通電を行わないときは、下記要領で水抜きを行なってください。

⚠ 警告	●排水時は、やけどに注意する
⚠ 注意	●長期間（1カ月以上）使用しないときは、タンクの水を抜く ●タンクの熱湯を直接排水しない

- 1 準備
- (1) 前日からタンクのお湯を抜くことがわかっていない場合は、前日に
わき上げ停止日数を「2日」に設定し、わき上げを停止しておく（P72）
- (2) ヒートポンプユニットの配管カバーを外す（P77）
- (3) 貯湯タンクユニットに脚部カバーがついている場合は、脚部カバー
の前面カバーも外す（P88）
- 2 タンク内のお湯を水にする
- 湯水混合栓（例えば台所など）を開き、熱いお湯が出なくなるまで
お湯を出します。熱いお湯が出なくなったら閉じてください。
- 3 機器のエア抜き運転を行う
- (1) リモコンの選択スイッチ「▲」「▼」を同時に3秒以上押す
- エア抜き運転中はリモコンに「エア抜き」が表示されます。
- 4 電源を切る
- (1) 貯湯タンクユニットの電源レバーを「切」にする
- 5 貯湯タンクユニット内の水を排水する
- (1) 給水配管専用止水栓（④）を閉じる
- (2) 逃し弁操作窓を開け、逃し弁のレバーを手前に起こす
- (3) 排水栓（③）を開く
- タンクの水（お湯）が抜けるまでに約1時間かかります。
- 排水ホッパーから排水があふれないように調整してください。
- 排水直後に逃し弁のレバーを戻さないでください。
- 6 排水後、機器（配管）の水抜きをする
- (1) ヒートポンプユニットの水抜き栓（①②）を開く
- (2) 貯湯タンクユニットの水抜き栓（①②）を開く
- (3) 貯湯タンクユニット給水配管のストレーナー（⑤）を外し、逆止弁の
解除ボタンを押す
- 容器などで受けて排水します。
- 水（お湯）が飛び散る場合がありますので、ご注意ください。
- 確実に抜かないとエラーが表示される場合があります。
- 7 水抜き完了後の処置
- (1) 水抜き完了後、1時間程度放置してから水抜き栓、排水栓、逃し弁
を閉じ、ストレーナーを取り付ける
- (2) 手順1（2）（3）で外した配管カバー、脚部カバーを取り付ける

ポイント

●再び使用するときには、排水栓、水抜き栓が閉じていることを確認して
から、「使いはじめ（準備）P25」を行なってください。

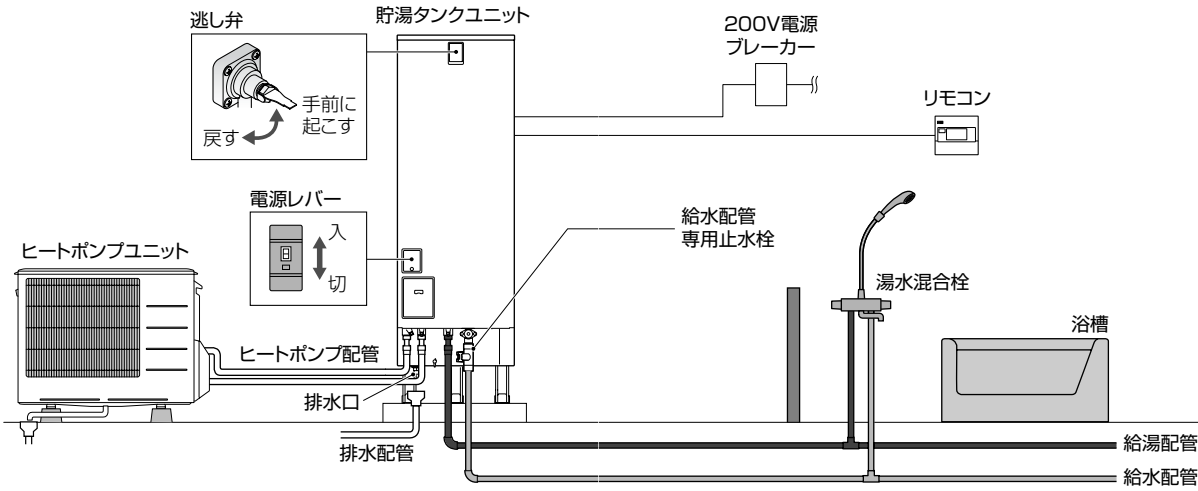
ご使用の前に

使いかた

こんなとき

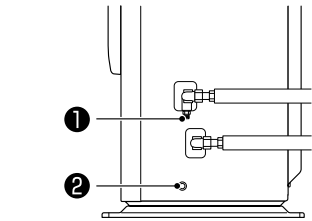
故障かな

逃し弁、電源レバー取付位置



水抜き栓、排水栓、ストレーナー、給水配管専用止水栓の取付位置

ヒートポンプユニット

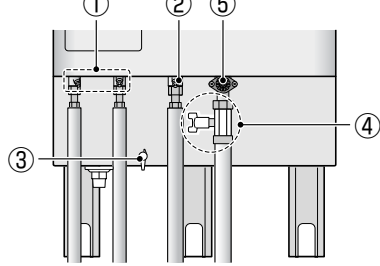


水抜き栓の操作

- ① B側水抜き栓
- ② 熱交換器水抜き栓

※水抜き栓を開くときは①→②の順に開いてください。

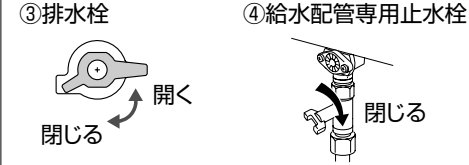
貯湯タンクユニット



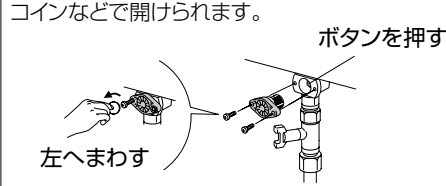
水抜き栓の操作

- ① ヒートポンプ配管用
- ② 給湯配管用

排水栓、給水配管専用止水栓の操作



⑤ストレーナーの外しかた／逆止弁の解除方法



エア抜き運転



使いはじめ（準備）

タンクの水抜きを行なった場合、下記の手順で給湯機の使用を再開します。またタンクの水抜きをせずに1カ月以上お湯を使用しなかった場合は、給湯機の水抜き（P24）をしてから次の手順を行なってください。

※給湯機を初めてご使用になる場合など、方法がわからないときは、
据付工事店（販売店）へご相談ください。

- 1 以下のことを確認する
- 貯湯タンクユニットの電源レバー：「切」
- 給湯機の水抜き栓、排水栓、ストレーナー：「閉」
- すべての蛇口（湯水混合栓）：「閉」
- 2 貯湯タンクユニットの設定準備をする
- (1) 200V電源ブレーカーを「入」にする
- (2) 電源レバーを「入」にし、約30秒間「入」にした後、「切」にする
- (3) 200V電源ブレーカーを「切」にする
- 3 機器を満水にする
- (1) 逃し弁操作窓を開け、逃し弁のレバーを手前に起こす
- (2) 給水配管専用止水栓を開き、貯湯タンクユニットへ給水する
- (3) 機器が満水になると、貯湯タンクユニットの排水口から水が出ます（満水までの目安：約30分）
- (4) 満水確認後、逃し弁のレバーを戻す
- 満水にしてから電源を入れてください。また、満水になるまで蛇口（湯水混合栓）は開けないでください。故障の原因となります。
- 給水中は排水口から少量の水が出ますが故障ではありません。
- 4 電源を入れる
- (1) 200V電源ブレーカーを「入」にする
- (2) 電源レバーを上げ、「入」にする
- 電源を入れると、昼間でもわき上げを開始します。
- 5 機器のエア抜き運転を行う
- (1) リモコンの選択スイッチ「▲」「▼」を同時に3秒以上押す
- エア抜き運転中は、リモコンに「エア抜き」が表示されます。10分後に自動で停止します。
- エア抜き運転を途中で終了させる場合は、手順（「▲」「▼」同時3秒押し）を行なってください。
- 初期のみ、電源を入れる（4項）と、自動でエア抜きを行います。
- (2) エア抜き終了後、タンク上部のエアを抜くため、逃し弁のレバーを約1分手前に起こす（1分後、レバーを戻す）

- 6 リモコンの時刻を確認する
- その他の設定（給湯温度など）も工場出荷時状態に戻っていることがありますので、確認してください。
- 初めてご使用の場合は電力モードを確認し、合っていない場合は、ご契約の電力制度に合わせてください。（P19）
- 7 お湯を使う
- 約8時間で満タンまでわき上がります。
- やけど防止のため、湯水混合栓の温度調節つまみを「低」側にしてから給湯つまみを開き、適温に調整してお湯を使用します。

⚠ 警告	●使いはじめは、やけどに注意する 特に朝の使いはじめは、空気の混ざった熱湯が飛び散る場合があります。
------	-------------------------------------------------------

ご使用の前に

使いかた

こんなとき

故障かな